

合衆国太平洋艦隊司令官 海軍大将トーマス・ファーゴ声明書

当官の本日の声明は少し長いが、声明書として文書でも配付されている。

ナスマン中将及び審問委員会からの合衆国船グリーンヴィルと日本国内燃機関船えひめ丸の間衝突に係わる状況を調査した委員会の報告書が4月13日に当官に送られて来た。

衆知の如く、同委員会は衝突のあらゆる局面に渡って調査を行なうという任務を帯びており、下記はその内の一部である：

- 衝突の原因及び責任の所在
- 乗船していた民間人の影響及び体験航海プログラム
- グリーンヴィルが指定を受けていた行動海域の適否、及び
- 当日乗船していた上級士官ロバート・ブランドヒューバー大佐の役割

当官はこれらに加えて次の事柄に言及する。

- 艦長ワドル中佐及び彼の乗組員の責任
- 捜索及び救助、及び
- 全局面を通じて、将来このような出来事を排除するための軍の方策

審問委員会は事実認定及び結論において全員一致であった。これは本日その全部を公表した包括的な報告書で、以下を含む：

- 衝突そのものについての概要説明書、完全再構築グラフィック図及び出来事の時間的推移説明
- 審問委員会報告書（全119頁）と覚え書き  
覚え書きは報告書検討後の当官の結論と処分の詳細書。  
2000頁を越える証拠書類と証言録は当軍のホーム・ページに掲載されている
- 加えて、本日の当官の声明書

審問委員会の報告書に加えて、当官は2月9-10日にグリーンヴィルに上艦していた民間人体験航海招待客から「国家交通安全委員会」に対してなされた非宣誓陳述の記録も読んだ。委員会は、今回の審問の過程で得た証拠、証言に鑑み、民間人召喚の必要性は無いものと判断したが、当官は彼らから寄せられた観察には耳を傾けるべき尊さがあると考えた。しかし、彼らの陳述書を読んだ後、委員会が提示した証拠の上に、当官の結論を変えるような新しい光明や手掛かりとなる事実を投げかけるものは特に無かった。

## 衝突

先ず、衝突について、今回の衝突には二つの根本的な原因が有った。

1. 第一は2月9日の浮上への準備として合衆国船グリーンヴィルが行なった音響的及び目視探索の不適切さであった。つまりグリーンヴィルは省略されたソーナー及び潜望鏡探知のみしか完了しておらずこれは標準行動手順はおろか艦長自身の手になる「艦長常備命令規定」にすら適合しないものである。
2. 第二是同艦の当直員チームが水上探知目標状況に関して、共に作業を行ない、互いに情報を伝え合うことを怠った事。同当直チームは無資格のソーナー当直員を起用し、AVSDUアナログ式信号映像表示モニターのビデオ表示の欠如を補う事を怠り、えひめ丸が近接している事を明示した筈であろう重要な情報を識別することを怠り、さらに艦長への充分な支援を提供する為に探知目標状況を適切に最新のものにしておく事をしていなかった。

この報告書を読めば、これら二つの原因の理由は如実に明白である。合衆国船グリーンヴィルの艦長はこの2月9日の浮上への準備にあたり、人工的な緊急意識を創造した。慎重な船乗り、彼の潜水艦の安全性、及び健全なる判断力の命ずる所と相反するものであるにもかかわらず、このように行行為することにより、彼は主要な探知目標管理及び発令所の人事を極度に軽んじ、処方された行動手順を最も安易な手を抜いた方法で実施し、かつ探知目標状況の適切な開発を妨げた。

グリーンヴィルは2月9日同日の浮上への準備を行うにあたり、三つの水上ソーナー探知目標に気付いていた。これら三つの探知目標を維持管理することはいずれの船の能力を持ってしても余裕のうちにこなせる範囲のものである。さらに究極的に、十分な潜望鏡による搜索を適切な時間、より高い位置から行ない、かつ白く、曇り勝ちな背景に対する当然の考慮を持ってすればこの事故は排除することが出来得たはずのものであった。

当官が提供した衝突の概要説明書はそのことについて全容を詳細に語っている。

当官はここで、えひめ丸の船長や乗員側には落ち度も、怠慢も無い事を明言して置きたい。えひめ丸上にはこの衝突に寄付するような機器あるいは装置上の欠陥は一切無かった。

今回の衝突は唯一合衆国船グリーンヴィル側の落ち度によるもので、この悲劇的な事故は潜水艦を水面に浮上させるにあたって、存在している海軍の諸規準、諸手順さえ単純に守っていれば防ぐ事が出来たもの、あるいは出来得た筈のものであった。

## 責任

これに関して、艦長の自分の船に対する責任については「合衆国海軍規定」に明確に定められている。それは絶対のものである。しかも一番最初に定められているのが船の安全航行についてである。当官はアドミラルズ・マスト（司令官による行政的懲戒処分裁決）において、合衆国船グリーンヴィルの前艦長であるスコット・ワドル中佐は軍事司法統一法典中の2項目への違反を犯し、有罪であると判定した。この2項目とは、第92条 - 「職務の履行における怠慢」、及び第110条 - 「怠慢により船を危険に晒す行為」。処罰として、当官は「懲戒処分懲罰状」を発行し、かつ、彼の給与の半分を、2ヶ月間、没収する旨を命令し、さらに、ワドル中佐を合衆国船グリーンヴィルの艦長としての前任務から「理由により」解任する処分を命じた。当官はこの没収の執行の猶予を行なった。これにより彼の軍人としてのキャリアは完全に終結する。

審問委員会の報告書の示す所により、2月9日のワドル中佐の諸行為は指揮を司る立場の士官に期待される高い標準からの甚だしい離脱を意味するものと呈示されており、よって当官はアドミラルズ・マストが彼の責任の有無の決定に合相応しい裁決の場であると結論した。同時に、同委員会報告書はワドル中佐の側の何等の犯意又は故意の違反行為の証拠も提示していない。当官はこれは重要な点であると考える。さらに、ワドル中佐は引責の原則と伝統を守り、よって自己の行為に対して完全に責任を取っている。この事故の起きる以前においては、ワドル中佐のこの國に対する奉仕の職歴上、履歴上の業績は秀逸なものであった。

さらに、当官はワドル中佐の事件を、衝突の原因に關係する諸事実は審問委員会の結果、さらに委員会の包括的な報告書により良く理解されているので、軍法会議に差し向けなかった。ワドル中佐は「海軍規定」に照らしてこの事故への責任があるのであり、彼はその責任を公に受認している。彼はすでにこの過程及び当官のアドミラルズ・マストでの処分の両方によって、正式に責任有るものと判決されたのである。

グリーンヴィルのその他の人員の責任の有無については、審問委員会からは哨戒長マイケル・コーベン中尉の責任については合衆国船グリーンヴィルの艦長により対処されるべしとの勧告も有った。しかし当官は、彼の責任についても「海軍規定」に照らしてそれが明確である故に、彼に対しアドミラルズ・マストを開く事を選定した。そのアドミラルズ・マストの聴聞の席で、艦長がその場に存在している場合でも、船の安全航行における、そして発令所での当直員の適切なる監督における彼の義務が有り彼がそれを完全に理解している事を確実にするために当官は彼に忠告、助言を与えた。

同委員会は火器管制官パトリック・シークレスト一等兵曹に対して接近しているソーナー探知目標（えひめ丸）についての報告を怠った事についての裁きを受け

る為に合衆国船グリーンヴィルの艦長による「艦長準備命令規定書」に照らしての「船長マスト」の裁きを受けさせる事を勧告している。当官はこの勧告を文書にし、太平洋潜水艦隊司令官の適切な裁量に委ねる為、これを司令官に差し回した。

審問委員会は又以下のグリーンヴィルの人員の2月9日の職務の履行に関して諭告を行なうことを勧告している。

- ・ 副長ジェラルド・ファイファー少佐を、  
行政的監督不行き届きかつ下士官當直命令書の履行不行き届きに対して
- ・ 先任海曹ダグラス・コフマン兵曹長を、  
行政的監督不行き届きかつ下士官當直命令書の履行不行き届きに対して
- ・ ソーナー員長エドワード・マクギボニーを、  
無資格ソーナー員の當直を許したことに対して

当官はこれらの勧告について文書にし、太平洋潜水艦隊司令官の適切な裁量に委ねる為、彼らを同司令官に差し回した。

審問委員会はブランドヒューバー大佐はグリーンヴィルの艦長に対して正式な職權は何も有しては居らず、実際に介入し、船の指揮を執り、かつこの事故を防ぐ為の探知目標に対する状況認識も有してはいなかったと裁定しており、当官もその裁定に同意している。

同時に、ブランドヒューバー大佐のような経験と立場を持つ士官は、例え体験航海の乗客としてであれ、グリーンヴィル上により説得力を發揮した役割を担うべきであったと当官は強く感じている。彼は実際にそうする目的を持っていたのにエスコートとしての援助は殆ど提供しなかった。潜水艦が急速に浮上の準備を行なっていると感じた時に彼は艦長にその点で問い合わせすべきであった。加えて、その日自分が海に出る準備をしていた際に、彼は司令官の留守中に太平洋潜水艦隊司令官の指揮系統の高潔性を確保する事を怠ったものである。

審問委員会は、2月9日に彼の職務をプロフェッショナルに遂行する事を怠ったことに対しブランドヒューバー大佐への諭告を勧告しており、当官はその旨を文書にして、その勧告を太平洋艦隊にも送った。

### 訪問客

グリーンヴィル上の訪問客体験航海プログラムの実施については、当官は、2月9日にグリーンヴィルに乗船していた体験航海の民間人たちの誰一人としてこの衝突に直接寄与した者はいないという委員会の意見に同意する。緊急浮上航行に

おいて管制に参加をした三人の民間人招待客は常時適切に監督されており、この事故に寄与はしていない。残りの招待客達は静肅にしており、かつ指示を謹聴していた。彼らはしかし、艦長にとって注意が散漫する存在であったことが判明しており、衝突につながるその時間において探知情報の通常の流れを妨げたのであり、その意味で、発令所の当直員達の業務に影響を与えたことになる。この発生を防ぐ事はワドル中佐の責任であった。

艦長達は、彼らの船への訪問者達の管理監督に関する方針と規則の面での責任を任されている。16人の招待客というのは、彼らが適切に組織され、船内中を通してエスコートされる限り、扱いは可能な数字である。我々海軍の艦長達は彼らの船を管理するものと期待されており、事実、彼らはこれ以上にストレスのある複雑な状況下にあっても彼らの船を日常の仕事として管理している。

クリーンヴィルの当初計画は、この潜水艦の予定された航海訓練期間に合わせて正当に今回のこの民間人体験航海をそれに組み入れたものであった。どの船も全く民間人の体験航海のみに航海に出でてはならないが、艦長によるぎりぎりになってのクリーンヴィルのスケジュール変更要請が彼らを体験航海という明確目的の為に一日の航海に出航させたのである。委員会はこの便宜はからいは適切なものであったと述べているが、定まった方針がある以上、その適切さと有益性についてその検討がなされるべきであった。

当官はこの訪問客体験航海プログラムへの修正が必要であると信じる。この処分により：

- ・ 当官は我等の潜水艦、水上、及び航空のタイプ指揮官達との連携のもとに民間人体験航海を支援する個々の船及び小艦隊の訓練議事日程の全てを直接個人的に承認するようにと隸下艦隊指揮官達に指示した。
- ・ 当官は太平洋艦隊副司令官に太平洋艦隊向けのこの指導要綱の検討にあたり連携を行なうよう指示し、かつ、全海軍に浸透する一貫した方針の確立を達成する為に海軍全体の関連指示書の徹底的な検討を行なう様にとの勧告を海軍作戦部長に送付した。
- ・ 最後に、民間人は重要な航行の間はどの場合も主要当直部署には立ち入りを許さないというのが当官の将来に向けての勧告である。これは緊急浮上も含まれる。

この訪問者体験航海プログラムは我々のような国にとって非常に貴重なものであり、一般市民はいかに海軍が運営されているのか及び海軍がこの国に対して提供している役割について知り、理解する権利と必要性を持っている。

教育者、ビジネスマン、立法者、幕僚人員、地方自治体政府の役人達、家族及びマスコミ関係などの人々で、アメリカの広い社会の代表的な顔である人々、海軍の使命についての国民の理解に大きく貢献している人々などが典型的な例です。

### 捜索及び救助

2月9日のグリーンヴィルの捜索及び救助に関する対応については、当官はそれが例外的であり、即応のものであったと特徴付けることしか出来ない。この事故が発生した時に、えひめ丸の乗員の為の捜索及び救助においてグリーンヴィルが彼らの出来る限りを尽くさなかつたと表示するものは何も無かった。乗組員の証言、乗船していた民間人訪問者達の観察、迅速に駆けつけ、配置についた救助の人員と物資、予想されていた天候状況、合衆国沿岸警備隊の報告及び海上で生存者を誰も目撃しなかつた点などから、当官にはグリーンヴィルがあらん限りの手早い処置で応答したことが明白である。当官は合衆国沿岸警備隊の何時もの如くの、実に徹底したプロフェッショナルな捜索及び救助努力に対し、ここに当官の謝意を付するものである。

### 行動海域

合衆国船グリーンヴィルの2月9日の行動海域は、独立の潜水艦行動には適切かつ相応しいものであるとも認められた。そこは良く知られた商業船舶の定期航路の南側に位置しており、交通量も少ない。このことは衝突事故の当日グリーンヴィルが唯一三つの目標しか探知しなかつた事実に明らかに表われている。

ここに肝腎要の揺るがぬ鉄則が存在する。浮上する際には潜水艦は常に他の船舶を避ける事が必須とされているという鉄則で、この鉄則はそれがいずれの場所においても有効応用される。

### 要約

行方不明方々のご家族に対して、当官はこの悲劇に対する当官の深い悲しみと遺憾哀悼の意をここに重ねて表明させて頂きたい。我々はこの困難な過程の間ずっと我々の謝罪の意を表明し続けて来ました。当初からずっと、この事故の原因に關係する諸事実を公平、公正、かつ公開された方法でもたらす事が当官の謹厳な使命任務でありました。

審問委員会ではえひめ丸とグリーンヴィル間の衝突の原因についての判決を出した。軍事司法統一法典の規定によって、当官はワドル中佐及び彼の乗組員のメンバー達に対し、彼らの職務の遂行に於ける怠慢不履行への責任を負わせ、適切と考えられる場合には処罰も与えた。

前にも表明したように、我々の上官及び最も経験を積んだリーダー達の周到な監督下で、かつ、明確具体的な承認下で適切な訪問者体験航海プログラムの実行を行なうことを確保する為の行為に関して指示を行なった。さらに当官はこのプログラムの運営管理について指揮系統による再検討の要請も行なった。

さらに加えて、この重大な事故を導いたグリーンヴィルの作業振り、艦長の解任ドック入りによる修復によって生じた船の訓練計画の中止、及び今回の調査の結果から、当官はグリーンヴィルにおける当直班の熟練度についての徹底的査定が必要であると信ずるに至った。当官は太平洋潜水艦隊司令官に対し、新しく任命される常置の艦長が着任した後に、この査定を行なうように指示した。新しい指導者のものとのグリーンヴィルの当直員のチームとしての成功的の証明をグリーンヴィルの展開配置任務許可の前提条件とする。

しかし究極的には、我々の職務の重要さを重んじ、十分に練られ、時を経て磨かれた行動手順を重んじる事により、我々はこのような性質の事故の発生を食い止める事を意図している。その故に、太平洋潜水艦隊司令官に対してこの事故の事例研究及びそこから学んだ訓戒をまとめ作成するよう指示した。これは各艦長及び艦長就任予定士官達に対する任務説明として伝えられ、その後、部隊の各船の士官達の訓練の為に使用される。当初の作業は60日以内に完了されるものとするが、これは常備必需なものとして残す。これはいかに任務が明白に簡単なものであっても、船乗りの航海においては寛大が許されるものは一切存在しないことをあまねく伝えることに役立てたい。

質問を幾つか受けます。